

居場所を自分で選択し、できることから進める取組について

不登校児童の状況

対象児童は、小学校5年生の途中から不登校状態であった。不安やストレスを感じやすく、朝登校する時間になると気持ちが悪くなる。週に2日程度、保護者と一緒に登校し、担任による個別支援と校内別室を活用した支援員による個別支援を行っている。今までは欠席することが多かったが、支援を続けていく中で週に2日以上登校し、個別支援に加えて教室での学習にも参加できるようになってきている。

具体的な取組

○安心できる居場所づくり

「不安の軽減と心の安定」

学校生活への心理的な不安を軽減するために、同じ支援員との個別の関わりを大切にし、対話を通じたフォローを行った。

「選べる学習環境」

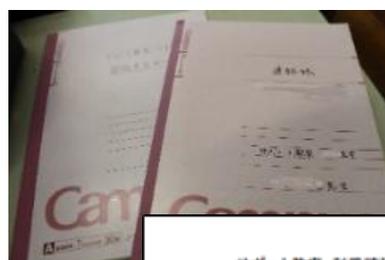
教室や個別支援のスペース、サポート教室など複数の環境を用意することで、当該児童が選択できるようにした。

○校内別室使用開始までの配慮

不登校や教室に入れない児童の居場所として、支援員による校内別室があることを当該児童に案内した。初めての場所への不安を軽減させるために、校内別室での個別指導を体験してから利用するか決められるように進めた。

○児童の取組の共有方法の工夫

学級担任と支援員が直接話をする機会を十分に確保できないため、ノートと利用確認カードを活用した。ノートには当該児童の様子を記録し、利用確認カードで指導してほしいことを伝えた。



サポート教室 利用確認カード			
日付	学級	科目	担任
3/2		個別指導	

このカードは、サポート教室を利用する際に、必ずお持ちください。ご利用の際は、必ずお持ちください。ご利用の際は、必ずお持ちください。

成果

欠席が続いていたが、複数の支援の環境を設け、選択できるようにしたことで改善が見られるようになった。また、学級担任と支援員が連携して当該児童の気持ちに寄り添いながら、丁寧で温かみのある対応を続けたことも、児童の安心感につながり、登校への意欲を高める要因となった。

課題

曜日によって支援員が変わるため、安心して利用できるための環境の整備が課題である。また、支援員が変わることで当該児童との関係づくりや支援員間の情報共有が難しくなるため、最適な支援の仕方について、引き続き検討していく。